血液透析中および乳汁中のdexmedetomidine
濃度変動の観察とその影響

【目的】 Dexmedetomidine（Dex）はブレンド型α₂受容体刺激薬であり、神経 vídeosを介してvasoconstrictionやhemodynamicsを引き起こす薬剤である。Dexの透析中および乳汁中の濃度変動は、透析中の薬物動態を理解するための重要な情報である。本研究では、透析中のDex濃度変動と乳汁中Dex濃度変動を観察し、貯存薬物動態を解明することを目的とした。

【方法】 透析中および乳汁中のDex濃度を測定するため、透析中および乳汁中Dexの定量を目的としたLC-MS/MS法を用いた。

【結果】 透析中にDexの濃度は低下し、乳汁中Dexの濃度は上昇した。透析中のDexの濃度変動は、透析開始後15分でピークとなり、その後徐々に減少した。

【結論】 本研究の結果は、透析中および乳汁中のDex濃度変動を観察し、貯存薬物動態を解明するための重要な情報である。今後は、より詳細な薬物動態を解明するための研究が期待される。